

(2) 領域別正答率

指導領域	問題番号				平均正答率
	一	二	三	四	
知識及び技能	問一、問二、 問三、問四	問一、問二	問一	—	72.0%
話すこと・聞くこと	問五	—	—	—	66.1%
書くこと	—	—	—	問一、問二、 問三	38.1%
読むこと	—	問三、問四、 問五、問六	問二、問三	—	46.4%
全体					58.0%

(3) 義務教育段階の傾向や課題

義務教育段階における学力調査等から、北海道の中学生には、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを形成することに課題がみられる。

○ 傾向や課題を踏まえた特徴的な問題 【大問二 問六】

【考えの形成】

問六 本文で筆者が述べている「こと」と「もの」の関係を、自分自身の経験を例にして説明しなさい。ただし、文中にある『』や『』の二つの言葉を用いて書くこと。

【精査・解釈】

問四 — 線3 二匹の猛犬が私に襲いかかってくるとき、…：目の前の犬それ自体が恐ろしいのです」とありますが、筆者がこのような例を示した理由を次のようにまとめるとき、
 ①、②に当てはまる表現を書きなさい。ただし、
 三十一字で抜き出し、最初と最後の五字をそれぞれ書くこと。また、
 ②は文中の言葉を用いて、二十字程度で書くこと。

私たちの経験をいきいきとしたものにしていくには、
 という考えに対して、犬がじかに私の恐怖に関わっていることを例として示すこと、
 ②であるということを主張するため。

【構造と内容の把握】

問三 — 線2 「その表情や意味である」とありますが、「表情」や「意味」を表している文中の語として適当なものを、ア～オから全て選びなさい。

オ エ ウ イ ア
 感覚 物体 材質 恐怖 記憶

正答率 (1.5%)
 中間点 (17.2%)

1 出題のねらい
 [問題の内容]
 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉え、理解したことに基づいて、自分の既存の知識や様々な経験と結び付けて考えを広げたり深めたりする力をみる問題である。
 [解答までのプロセス]
 ① 問三で、本文において筆者がどのように「こと」を捉えているか、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉える。
 ② 問四で、本文において筆者がどのように「こと」と「もの」の関係を捉えているか、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えた上で、必要な情報を整理し、内容を解釈する。
 ③ ①、②を踏まえ、主張と例示との関係から、本文を読んで理解したことを知識や経験と結び付け、表現する。
 [関連する学習指導要領の領域と内容]
 第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕 C 読むこと (1) オ
 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。

2 解答の状況と分析
 問六の正答率は1.5%、中間点の取得率は17.2%であった。受検者にとっては、本文において筆者が考える「こと」と「もの」の関係について理解したことを、自分自身の経験と結び付けて表現することが難しかったと考えられる。

(4) 中学校における今後の授業の在り方

○ 授業実践例

C 読むこと 【中学校 第2学年 国語】

「共通の題材に対して書かれた複数の文章を比較し、構成や論理の展開を捉え、考えを深めよう」

指導事項

ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。
 [知識及び技能] (2) 情報の扱い方に関する事項
 オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。[思考力、判断力、表現力等] 考えの形成、共有

言語活動

ア 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。

学習過程		(主な学習活動)	(指導上の留意点)
第一次	第二次	設定した言語活動：「絵画の鑑賞文を書こう」 ① レオナルド・ダ・ヴィンチ作の絵画「最後の晚餐」を鑑賞し、感じたことを形容詞を用いて表す。(個人) ② ①の理由について話し合う。(グループ)	■ (①②について) 感じたこととその理由が、主張(抽象)と根拠(具体)の関係にあることに気付かせる。
		③ 本文Ⅰ「君は『最後の晚餐』を知っているか」及び本文Ⅱ「『最後の晚餐』の新しさ」を読み、それぞれにおける情報の扱い方について調べる。(個人) ④ 本文Ⅰと本文Ⅱの内容を主張(抽象)と根拠(具体)の観点から整理する。(個人→グループ)	■ (③について) 本文Ⅰと本文Ⅱの中から、主張とそれを具体的に示している箇所を探し、それぞれ線を引くように指示する。 ■ (④について) 絵画「最後の晚餐」について、本文Ⅰの筆者は「かっこいい(かっこよさ)」と主張し、本文Ⅱの筆者は「新しい(新しさ)」と主張していることを把握させる。併せて、それぞれの根拠となる具体についてロジック・ツリー等の思考ツールやJamboard等を活用して視覚的に整理させ、抽象と具体の関係について考えさせる。 (例) <div style="text-align: center;"> </div>
第三次		⑤ ④で整理したものを基に、本文Ⅰと本文Ⅱにおける主張と根拠の関係について、どちらの方が説明として優れているか(説得力があるか)自分の考えをもつ。(個人) ⑥ ⑤で考えたことについて周囲と共有する。(グループ)	■ (⑤について) 例えば「私は本文○の方が、『○○○』という主張について具体的に根拠を示してしっかりと説明していると考えます。なぜなら……。」といった頭括型等の文例を示して、思考しやすくなるよう工夫する。 ■ (⑥について) 第三次で鑑賞文を書く際の手がかりとなるように、具体的な情報を共有するように促す。
		⑦ 「最後の晚餐」以外の絵画について、主張とともに具体的な根拠を示して鑑賞文を書く。(個人) ⑧ ⑦で鑑賞文を書いた時に、大切にしたことについてまとめる。(個人)	■ (⑦について) 第二次の学習活動を踏まえて書くよう指示する。なお、教科等横断的な学習として、美術の授業と関連を図ることも効果的である。 ■ (⑧について) 本単元の学習をとおして、何ができたようになったかなど、自らの学びを振り返るように促す。

○ 授業づくりのポイント

この単元では、文章の構成や論理の展開を捉え(学習活動③④)、文章の精査・解釈により理解したことや考えたことを他者と共有する(学習活動⑤⑥)ことで自分の考えを広げたり深めたりする活動を行った。このように、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるような学習活動の一層の充実が求められる。

(5) 高等学校における指導の在り方

高等学校では、「現代の国語」や「言語文化」において、叙述を基に、構成や展開、内容を理解し(構造と内容の把握)、書き手の意図、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する(精査・解釈)こと、さらに自分の考えを形成し、探究することを通して自分の考えを広げたり深めたりすることが求められる。例えば、複数の文章や図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりするなど、自分の考えを広げたり深めたりしていくような学習活動の一層の充実が求められる。